

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 (財)石川県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

外国人住民に対して、子連れでも受講でき、また自分の子どもと日本語でコミュニケーションする練習の場を提供する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月13日	石川県国際交流センター	星 亨 今井 武 金谷 由美 旭 栄子 田中 民恵	子育て教室第1期の運営について	子育て日本語教室開講に至る経緯の説明。メイン講師と日本語サポーターとの協力態勢、教材の使い方について打ち合わせ。
9月20日	石川県国際交流センター	星 亨 今井 武 山森 通子 古林 秀美 桜井 正美	子育て教室第2期の運営について	子育て日本語教室開講に至る経緯の説明。メイン講師と日本語サポーターとの協力態勢、教材の使い方について打ち合わせ。 第1期の反省点についても話し合い。
1月12日	石川県国際交流センター	星 亨 今井 武 山森 通子 古林 秀美 桜井 正美	子育て教室全般についての反省会	子育て日本語教室の運営全般についての意見交換。今後、日本語サポーターを取り込んだ日本語クラス運営の可能性について。

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 IFIE 外国人親子のための子育て日本語教室
- ② 開催場所 石川県国際交流センター 大研修室
- ③ 学習目標 主として家庭で親子が使う日本語表現やその場面で使われる典型的な会話例を身につける。日本で子育てをする外国人住民に対して子育てに関連した情報や知識を提供する。子育てをしている外国人住民同士、あるいは日本人住民と知り合える場を提供する。
- ④ 使用した教材・リソース 「外国人母親のための子育て日本語表現」(ヤマガタヤポニカ)
- ⑤ 受講者の募集方法
当協会で開催している IFIE 日本語教室の受講生にチラシを配布した。
- ⑥ 受講者の総数 35人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 中国15人、台湾1人、ベトナム4人、モンゴル1人、マレーシア3人、韓国2人、フィリピン1人、オーストラリア1人、ポーランド1人、イタリア1人、イラン1人、不明4人)
- ⑦ 開催時間数(回数) 31.5時間 (全 21回)
- ⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月6日	1.5時間	9人	中国7人、豪1人、ベトナム1人	教授者1人	1課「何でも食べよう」、食育とおやつ
②	7月13日	1.5時間	9人	中国5人、台湾1人、豪1人、ベトナム1人、ポーランド1人	教授者1人	2課「勉強をがんばろう」、子どもの教育
③	7月20日	1.5時間	1人	中国1人	教授者1人	3課「車に気をつけて」、交通、通学
④	7月27日	1.5時間	9人	中国4人、台湾1人、ポーランド1人、イラン1人、不明2人	教授者1人	4課「かたづけなさい」、子どものしつけ
⑤	8月3日	1.5時間	4人	中国2人、ポーランド1人、イラン1人	教授者1人	6課「不審者を見たら」、地域の治安、防犯
⑥	8月10日	1.5時間	5人	中国3人、ポーランド1人、イラン1人	教授者1人	7課「お手伝いありがとう」、家事、手伝い
⑦	8月24日	1.5時間	4人	中国3人、イラン1人	教授者1人	11課「けんかしたの?」、親と子供の関係

⑧	8月31日	1.5時間	8人	中国3人、台湾1人、韓国1人、ベトナム1人、ポーランド1人、イラン1人	教授者1人	14課「怪我したの?」、事故、怪我
⑨	9月7日	1.5時間	7人	中国4人、台湾1人、イラン1人、不明1人	教授者1人	16課「おなかが痛いのか?」、健康、病気
⑩	9月14日	1.5時間	10人	中国4人、イラン1人、ベトナム1人、ポーランド1人、韓国2人、不明1人	教授者1人	ゲスト講師講義：金沢での子育て
⑪	10月6日	1.5時間	7人	中国3人、ポーランド1人、フィリピン1人、イラン1人、不明1人	教授者9人	1課「何でも食べよう」、食育とおやつ
⑫	10月13日	1.5時間	7人	中国4人、ポーランド1人、ベトナム1人、不明1人	教授者7人	2課「勉強をがんばろう」、子どもの教育
⑬	10月20日	1.5時間	7人	中国4人、ポーランド1人、ベトナム2人	教授者9人	3課「車に気をつけて」、交通、通学
⑭	10月27日	1.5時間	11人	中国3人、マレーシア3人、モンゴル1人、韓国1人、ポーランド1人、ベトナム2人	教授者8人	4課「かたづけなさい」、子どものしつけ
⑮	11月10日	1.5時間	6人	ベトナム3人、モンゴル1人、韓国1人、ポーランド1人	教授者8人	6課「不審者を見たら」、地域の治安、防犯
⑯	11月17日	1.5時間	7人	中国3人、ベトナム3人、モンゴル1人	教授者7人	7課「お手伝いありがとう」、家事、手伝い
⑰	11月24日	1.5時間	4人	中国3人、韓国1人	教授者9人	11課「けんかしたのか?」、親と子供の関係
⑱	12月1日	1.5時間	4人	中国2人、ベトナム2人	教授者8人	14課「怪我したの?」、事故、怪我
⑲	12月8日	1.5時間	3人	中国2人、ベトナム1人	教授者7人	16課「おなかが痛いのか?」、健康、病気
⑳	12月15日	1.5時間	6人	中国3人、ベトナム2人、韓国1人	教授者10人	質問の日
21	12月22日	1.5時間	3人	中国1人、ベトナム1人、韓国1人	教授者4人	ゲスト講師講義：ゴミを減らそう

⑨ 特徴的な授業風景

授業報告1

日にち:11月17日

テーマ:お手伝い・家事

準備物: 前半授業:PPT、生徒用テキストプリント

後半活動: 投射用画像、タスクシート

時間	項目	内容
15:00	事前ミーティング	
15:15- 16:15	『外国人母親のための子育て日本語表現』第7課 (担当:古林)	第6課「お手伝いありがとう」 ①グループ会話(はじめに) あなたの子供は…… ②語彙導入・スキット「お手伝いを頼む」 ③文法「～てくれない?」「～のおかげで、～てくれて、」 「～でしょう?(ねぎらいのことば)」
16:15- 16:45	活動(ファシリテーター:星)	資料を見る、QA、話し合う ①日本人の「子供の時よくしたお手伝いランキング」紹介。 * 家事に関する語彙補遺 ⇒ 自国ではどうか ②プリントを見ながら、自分の得意な家事、苦手な家事について話し合う。⇒ とくいな家事の「コツ」を発表
	ふり返り: 学習者の感想、要望	
16:30- 16:45	反省会(担当講師、サポーター、ファシリテーターによる)	

参加者: 受講生: 7人

支援者: 6人+星・今井

見学者: 1人

保育士(シルバー人材センターより派遣): 2名

託児児童: 1名

所見: ベトナム人3名と中国語系の常連組6人という熱心なグループでの授業。だが熱心なだけに、各人のレベル差が浮き彫りになり、教科書による全体授業の難しさを感じた。レベルの高い方の生徒は十分余裕を持ってついていけたようだが、レベルの下の方の生徒にとっては授業内容の量とスピードはかなりきつかったと思う。サポーターと二人三脚で授業終了まで必死に走り抜けたという感じであった。その分、後半の活動は極力ペースダウンした。

授業終了後に、前回 ZIBI さんから提案があったクラスパーティーの日程について希望をとった結果、最終日 12 月 15 日の授業時間ということになった。また、12 月 22 日の同じ時間に、

この日見学をされていた進藤さんのグループが「ECO」をテーマにした特別授業をしてくださることになった。

授業報告2

日にち: 7 月 27 日

テーマ: しつけ

準備物: 前半授業: PPT、生徒用テキストプリント

後半活動: 投射用画像、タスクシート

時間	項目	内容
14:45	事前ミーティング	
15:00- 16:00	『外国人母親のための子育て日本語表現』第4課(担当: 金谷)	第3課「かたづけなさい」 ①グループ会話(はじめに) 子どもがかたづけなさいとき ②語彙導入・スキット「かたづけなさい」 ③文法 「～く/になったら、～てね/なさい」「～たままでしょう」 「～も多いし」「いいかげん(に)～」
16:00- 16:30	活動(ファシリテーター: 星)	資料を見る、QA、話し合う ①写真で「～っぱなし」の練習 video (公共 CM)『ぱなしはなしって話です』 ⇒歌練習 ②日本の学校のきまり プリント+話し合い ③自国の学校と日本の学校。 どちらが厳しい? 甘い? ④あなたは厳しい親? 甘い親? お父さんとお母さんとどっちが・・・ あなたの奥さん/ご主人・・・ こわい/優しい?
	ふり返り: 学習者の感想、要望	
16:30- 16:45	反省会(担当講師、サポーター、ファシリテーターによる)	

参加者: 受講生: 9 人

支援者: 7 人

見学者: 0 人

保育士(シルバー人材センターより派遣): 2 名

託児児童: 4 名

所見・感想：

先週参加の1名と、先週休んだ人のうち4名が戻ってきてくれて5名、それに今日から「飛び入り」的に参加した4名が加わり、再びにぎやかな教室になった。新人4名のうち3名の中国人女性は初級後半以上のレベルと思われるが、残りの一人はほぼゼロ初級のイラン人女性。イラン人女性には今井先生がついて結局、授業とは全く関係のない個人指導を受けていたが、次回もぜひ「参加」したいとのこと。このようなクラスをやっている以上は、このようなケースにもある程度対応しなくてはならないのかも。この人と、おなじみのポーランド人パパを除いて、今日参加した人はある程度の日本語力はあったので、授業にはかなりついてきた模様。ポーランドパパもサポーターの補助(ローマ字補助も含め)の助けで、何とか授業に参加して、発言もそれなりにしていた。例によって、ほぼ全員笑みを絶やさず、終了時間になっても話し止まなかったところから見て、満足して帰ったのではないかと思う。ただし、「それだけでいいのか？」というのが今後の課題となるだろう。

今回特に感じたことは、学習者よりも、サポーターの皆さんが回を重ねるごとに成長しているということだ。学習者のレベルに合わせての受け答え、授業の流れを見極めての自主的な行動などが見られたのも感心させられたが、授業後のふり返りの時間のやりとりから感じたのは、皆が学習者との対話のなかで自分が学んだことに気づき始めたということだ。「教えてあげる」、「助けてあげる」というスタンスから脱皮して、「学習者と対等な立場で参加する」ということが始まっているとしたら素晴らしいことだと思う。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

取り扱った内容が家庭内、家族間のコミュニケーションであるため、なかなか効果や結果は見えにくかった。しかし、子どもとの日本語での会話という通常の授業ではあまり取り扱わない内容のため、学習者の授業中の真剣さは普段の授業では見られないものだった。

② 学習者の習得状況

学習者のレベルには非常に大きな開きがあり、人によって習得状況にも差があった。しかし、メインの講師が授業を進行し、他の講師が学習者の間に入り、学習をサポートするという形態をとったため、それぞれのペースで、それぞれが興味を持ったことを身につけて帰っていくという当初意図したような授業になった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

当協会ではこれまで有料の日本語教室を実施してきたが、今回初めて受講料無料のクラスを設置した。また、学校型ではなく相互交流型の授業内容を中心に据えたクラスも初めての試みであった。

これは外国人学習者にとっては、個別のニーズに応えた授業が実施され選択の幅が広がり、より幅広い外国人住民に日本語学習の機会を提供することになると思われる。

また、教える側にとっても、例えばベテランの日本語講師には地域日本語教育の現状を知るよい機会となり、今回初めて講師として教えた日本人サポーターにとっては、クラスを一から立ち上げたり、授業準備を全て自分で行うような過大な負担なしに日本語学習のサポートに取り組む機会を得られる場となったようである。

協会としても、県内各地で行われている日本語教室を支援する上で、外国人住民や日本語サポーターから直接意見を聞ける場を持つことができ、また実験的な取組を行うこともできた。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今年度、当協会が実施した「外国人に日本語を教えたい人のための基礎講座」の修了者 7 名がサポーターとして参加し、その他にも子育てクラスのことを聞いて 2 名の方が新たに外部から授業に参加された。これまで当協会は外部のボランティアベースの講師を直接取り込んで授業を行うことはしておらず、初めての取組となった。

サポーター参加者は、非常に積極的に授業に取り組み、子育て教室終了後も次に何をするか自主的に話し合いを持つほどであった。

⑤ 改善点、今後の課題について

- a. 現状：今年度は、日本語授業のテーマは「子育て」に限られ、平日昼間のみの開講であった。
- b. 今後の課題：今後は、「子育て」以外のテーマ、例えば「日本語初期指導」、「読み書き」、「就労」なども取り入れ、日本語サポーターの養成、研修にも力を入れたい。有料の学校型教室と並行して、それぞれ背景の異なる学習者がそれぞれの希望や都合に合わせて授業を選び、そこに地域の日本人住民も関われるような日本語教室も実施できればと思う。